
また、喧嘩しようね....?

零式

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

また、喧嘩しようね・・・？

【Nコード】

N0433P

【作者名】

零式

【あらすじ】

また、二人で一緒に・・・

（前書き）

？前書き？

どうも、零式です。

少しの連載停止すみませんでした・・・；

理由は・・・あとがきにて、お話します。

さて、今回は少し恋愛小説を投稿してみたいと思います。

皆さんは、「トムとジェリー」というアニメーションをご存知でしょうか？

私は、昔は結構気に入って見てました。

それでは・・・「幻の最終回」・・・というのは、ご存知でしょうか？

これは、都市伝説となった「トムとジェリーの最終回」の事です・・・。

内容は、以下の様になります・・・

○トムが自分に迫る死を感じ取り、ジェリーの前から姿を消す。

○ジェリーは、最初の時には何も気にしないでいた。

○だが、次第に退屈な日々を送る様になる。

。そこに、一匹の猫が・・・

。ジェリーは、その猫を暇つぶしに懲らしめようとしています。

。だが、トムとは全然違う猫は、あっさりとジェリーを捕食してしまいます。

。薄れる意識の中、ジェリーはトムの事を思い、息絶える。

。そして、天国で再開した二人は「また、喧嘩しよう」と追いかけてつこをするのであった・・・

End・・・・・・

まあ、こんな感じです。

それを見た私はピンときて、この作品を書きました。

「こんな結末は、誰が望もうか・・・宜しい、ならば恋愛だ。^{クリーク}」

そして、出来上がったのが・・・この作品。

（実は、この作品は以前に別の所で投稿した作品ですが・・・異様に高評価でした）

では・・・

「少しばかり、甘い時間を貴方に・・・」

カタン・・・ジェリーは家に戻ってくる・・・

誰も居ない静かな家・・・

いや、居なくなつた家・・・

ジェリーの喧嘩しながらも一緒に暮らしていた者・・・トム・・・

しかし、ある日突然ジェリーの前から姿を消した・・・

ジェリーは気づいていた・・・

（もう、この世界には彼はいないんだ）

いなくなった時は何も悲しむ事はなかった・・・

でも、何処か胸の奥がチクチクと痛む・・・

如何してだろう？こんな気持ちは・・・

そんな感じを毎日続いていた・・・

ふと、彼女は気配を感じる・・・

（誰がいる？）

ジェリーは、気配がする部屋を見ると一人の男が部屋を漁っていた

（泥棒・・・！？）

ジェリーは息を呑み、部屋へと入っていた

「出て行って！」

突然現れたジェリーに驚いた男はナイフを取り出し、ジェリーに襲い掛かる

しかし、ジェリーはひらりとナイフを避け、逃げる。

男はナイフを持ったままジェリーを追いかけた

だが、足の速いジェリーと足の遅い男では違いが出て、あっさりと見失ってしまう

男はジェリーを捜している中

ジェリーは罌を仕掛けていた

”何時もトムに使っていた手だ”

ジェリーは男が通る道にそつと罾を仕掛け、物陰に隠れた

トムの様に引つかかる・・・その光景が彼女の頭に浮かんだ

そして、男がやってきた・・・

（よし！掛かれ！）

彼女はそう思った。

だが・・・

彼はトムではない。

男はジェリーの気配を感知し、罾を通り抜け、ジェリーが隠れている所に来る

「・・・え？」

次の瞬間、ジェリーの目には銀色に輝くナイフと自分の血であろう赤い液体が映りました

彼女は、ようやく気づきました

（今までトムは、わざと私の罠に引っ掛かっていた・・・）

トムは、あんな素振りをしているが、実際には簡単に避けれる事が出来た・・・でも、そうしなかった・・・

ジェリーは、ようやく気づいた・・・彼の愛を・・・

でも、もう遅い・・・彼は・・・トムは、この世にいないのだから・・・

ジェリーは薄っすらと消え行く意識の中、何処か懐かしい声が聞こえました・・・

「ジェリー・・・！ジェリー・・・！」

それはトムの声でした・・・でも、だんだんその声は消えていってしまった・・・

ハッ！

ジェリーは目を覚ましました

（生き・・・てる？）

ジェリーには、まだ生きているという感覚が、ありました

「起きたか？」

また、あの懐かしい声が聞こえてきました・・・はつきりと・・・

「嘘・・・」

ジェリーは幻かと思いました

何故なら、そこにいたのは居なくなつた筈のトムだったからだ。

ジェリーは慌てて起き上がりました

それと同時に胸に強烈な痛みが走りました

「痛ッ・・・！」

トムはジェリーの胸を優しく触れました

「まだ動くな、あの時の傷は治ってないんだから・・・」

「どうして・・・」

「えっ・・・？」

「どうして、生きてるの・・・?」

それを聞いたトムは椅子をジェリーの横に置き、座った

「・・・・・・・・あれは・・・俺が死ぬ前の事だった・・・」

トムは薄れていく意識の中、最後にジェリーの事を思いました

（あいつには黙って出て行ったけど・・・きっと許してくれるだろうな・・・）

「そうだろうか?」

突然、声が聞こえる

しかし、目の前の視界が薄れているトムには、その者の姿が見えず、声しか聞こえません

「本当に、それで彼女が許してくれるのか?」

コツコツ

足音が聞こえる

「私には到底思えないな」

足音は自分の耳元で止まった

「彼女は今でも、あんたの事を思ってるんだぞ？本当にそれで良いのか？」

トムは弱っている体で必死に口を開け、喋る

「……だが……この体じゃあ、どうしようもない……
もう俺は……」

「生きたいか？」

「生きて、彼女の元に戻りたいか？」

「生きて、彼女を抱きしめたいか？」

「生きて、彼女を幸せにしたいか？」

男の声がトムの脳裏に響く

トムは、強く拳を握り締める。

「……生きたい……」

「生きて・・・あいつともう一度喧嘩をしたい・・・」

それを聞いた男は少し無言になり、こう言った

「なら・・・行つてこい・・・」

その後、急に体が動ける様にもなり、目もはっきりと見える様になった。

まるで、死人が蘇ったかの様に・・・

そして、トムは急いで二人と一緒にいた家へと向かいました。

「そこで・・・お前が男に刺されて倒れているのを見て、助けたって事だ・・・」

「・・・・・・・・・・か・・・」

「え？」

「遅いよ・・・馬鹿・・・」

ジェリーの体は震えていた

「どうした？まだ・・・」

「遅いつて言つてんだよ！馬鹿ああ！！」

部屋にジェリーの声が響き渡る

「馬鹿か！お前は！死んでないならさっさと来い！だからお前はノロマなんだ！！」

「ジェリー・・・」

「何時も何時も・・・遅いんだよ・・・」

ポタポタ・・・ジェリーの目から涙が・・・

「遅いよ・・・ヒクツ・・・馬鹿あ・・・」

トムはジェリーを抱きしめる

「悪い・・・今度は、ちゃんと約束守るからさ・・・」

「・・・破つたら・・・承知しないぞ・・・」

「はいはい・・・守るよ・・・」

その時に感じたトムの暖かさは太陽みたいに暖かった。

（後書き）

？あとかき？

はいはいどうも、零式です。

深夜頃に投稿したのは、良いんですが・・・

以前の物を丸々コピペした奴だったので、誤字等が・・・；

その為、朝から編集です。

何とか、読みやすいようになったと思います。

・・・もう、この小説を読んで気づいた方は、いると思いますので説明します。

「トムの回想の時に出てきた男は何者ぞ？」

これは、家のオリキャラです。

名は”白神”

普通の死神とは、相反する存在です。

天使でなく、墮天使でもなく・・・

「死神のパラッド」という小説を見ていただければ、分かると思います。

あの小説の主人公とよく似た存在です。

普段は、人間の医者の姿をしており、ヤブ医者。

だが、とある組織にその素質を買われ、正式な医者に・・・

そして、今回。

彼の目にトムが入ったという訳です。

さて・・・「突然ですが、貴方は今から魔王です。」の件ですが・・・

すみません、色々あって編集どころではありませんでした。

理由は・・・最初の日就職の件で忙しくなり・・・次の時には風邪とは思えない病に侵され・・・

その結果がこれだよ。

はい、今でも咳が止まりません。吐くよう咳が出ます。

熱は、何とか引きました・・・ですが、うっざい事に咳が・・・ゴホッゴホッ！

これも、あのお山の亡霊の祟りか・・・？

だったら、もう登らねえ・・・あんな。。山・・・

話は戻って、続きの投稿ですが・・・

咳が、止み次第。作業に取り掛かろうと思います。

本当に咳がうざい程に出てねえ・・・

菌は、もう含まれていないただの咳なんですが・・・（えっ？）
何で、こんなに咳が出るのかしら・・・？

まあ、そんな訳で・・・次回まで待つていただけたら、幸いです。

それでは・・・これd・・・ゲフン！ゴフン！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0433p/>

また、喧嘩しようね....?

2010年11月24日21時14分発行